

### 3 オオタバコガの薬剤感受性

#### ねらいと成果

近年、淡路島においてレタスやキャベツなどの秋冬野菜でオオタバコガの発生が増加し、被害が問題となっている。そこで本種について、実験室内での薬剤効果試験を行い、有効薬剤の選定を行った。

その結果、アフーム乳剤、フェニックス顆粒水和剤、クロラントラニリプロール水和剤、クロラントラニリプロール水和剤（登録申請中）は室内検定で高い効果が認められ、防除薬剤として有望であると考えられた。

#### 内容

供試虫は2008年11月に南あわじ市の「ファームパーク」内のコスモスに寄生するオオタバコガ幼虫を採集し、実験室内で人工飼料を用いて25 16時間明条件下で飼育した。

検定には飼育後、数世代経過した後の中齢幼虫（3齢主体）を1薬剤あたり6個体用いた。供試薬剤は図1に示すとおりで、検定方法は次の葉片浸漬法で行った。各薬剤に播種後約30日のキャベツ葉片（長さ約3cm）を約30秒間浸漬し、その後風乾させ、乾燥後に直径約9cm、高さ5cmのアイスクリームカップに入れ飼育した。共食いを避けるために幼虫は各容器に1個体ずつ入れ、室温条件（約20～25）で飼育した。

効果の判定は1日後、2日後、5日後に行い、各

薬剤区ごとの補正死虫率を算出した。葉片が食い尽くされた場合は、新しい無処理の葉片を与えて飼育した。この試験を3回繰り返し、1薬剤当たり合計18個体の平均補正死虫率を算出した。

室内検定の結果、クロラントラニリプロール水和剤、アフーム乳剤、フェニックス顆粒水和剤は死虫率が100%となり高い防除効果が認められた。スピノエース顆粒水和剤、トルネードフロアブル、エスマルク水和剤、コテツフロアブルは死虫率が80%以上となり有効性が認められた。ハチハチ乳剤、ブレオフロアブル、ノーモルト乳剤は死虫率が80%以下となった（図1）。

この結果を2007年に行ったほ場試験の結果（図2）と比較すると、コテツフロアブル、ハチハチ乳剤等は、ほ場での効果がやや低くなったが他の薬剤は室内試験とほぼ同様の傾向が見られた。

#### 今後の方針

淡路での最重要難防除害虫であるため、現地での薬剤の効果確認とあわせて、継続して薬剤感受性の検定を行う。

二井 清友（淡路農技セ 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

無処理区の死虫率を0として補正した死虫率

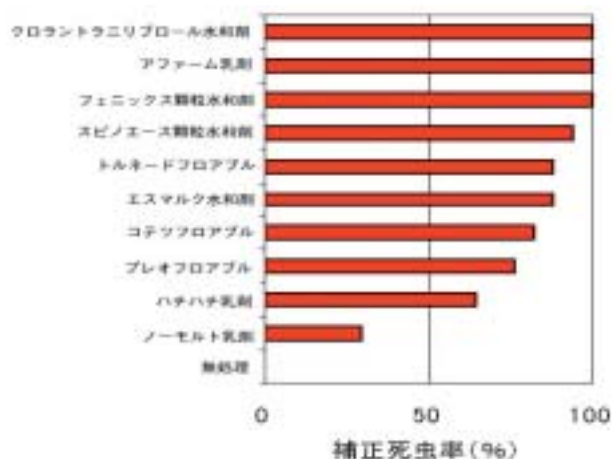


図1 室内試験による防除効果（2008）

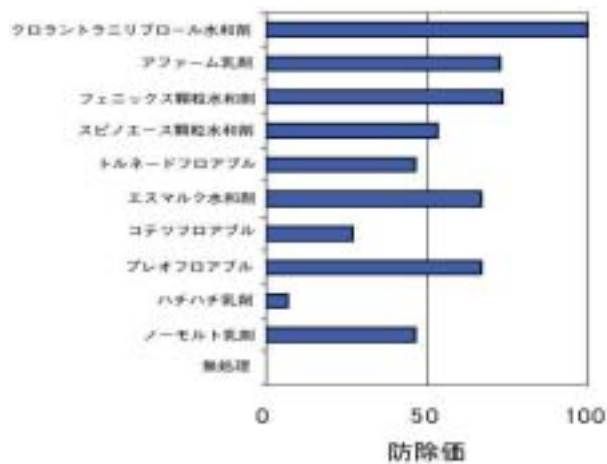


図2 ほ場試験による防除効果（2007）